

## 平成 30 年度第 7 回 FD・SD 研修会報告

日 時：平成 31 年 1 月 15 日（火）14:40～15:40

講 師：教務部長／ビジネス実務学科 教授 矢澤 建明

テーマ：平成31年度シラバス作成方法及びティーチング・ポートフォリオ

大学や短大の授業には必ず「シラバス」という授業内容が詳しく書かれたものがあります。最近では、すべての大学短大でシラバスを公開することになっており、しかもさまざまな情報を記載しなければなりません。シラバスとは、もともと「学生の授業選択のため」「学生が公平な成績評価を受けるため」「学生が効果的な事前事後学修ができるようにするため」に提示されるものです。今回は、シラバスの様式が新たになることから、そもそもシラバスについてどのように記述していくべきか、シラバスの新様式で注意点は何か、といった内容についてお話させていただきました。

まず、シラバスとは「学生と教育機関との契約」でもあり、あらかじめ提示されるものです。たまに見受けられる例で多いもので、各回が固まっていなため、あいまいな記述になっているものです。特に、事前事後学修を「前回の復習」「次回の予習」だけでコピーペーストし、具体的に明示されていない例が多いようです。事前事後学修といっても、何かさせるのであれば内容はあはずです。また、学修時間と単位の実質化の関係から、事前事後学修をしないという授業はありえません。さらに、現在は授業内で「アクティブラーニング」を実施することが求められています。「アクティブラーニング」については、詳しく解説する余裕はありませんが、以下のようなものとなります。

- ・ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学修
- ・ ディスカッション、ディベート
- ・ グループワーク
- ・ プレゼンテーション
- ・ 実習、フィールドワーク

専任教員の中には、授業内でグループワークやプレゼンテーションを実施している方々も多くいらっしゃいますが、シラバスに記載されていないケースも多くあるようです。今回は、やっているアクティブラーニングは記載することと、何らかのアクティブラーニングを1回は導入するようお願いしました。

また、シラバスの様式変更についても、詳しく説明させていただきました。以下に列挙しますと、

- ・ 科目とディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）との関係
- ・ ディプロマポリシーと評価方法の関係
- ・ 実務経験のある教員の記載
- ・ 科目としてのルーブリック

となります。

最初の3点は、さまざまところから言われている要請に対応したのですが、「科目としてのルーブリック」は、本学独自のものです。まだ、シラバス内に記載する様式にしている大学短大は少ないようです。現在は、試行として必須条件ではありませんが、いずれ定着していけばよいと考えております。

最後に、ティーチング・ポートフォリオについても説明させていただきました。私にとっても未知のもでしたが、こちらもいずれ導入が必要になってくるかもしれないということで、いい機会と考えて個人的に調査した内容をお知らせしました。

以上、こちらからの情報提供ばかりで、少々退屈なFDだったかもしれませんが、これからシラバスの作成をお願いし、教務教員でチェックをしていくために必要なことだったと考えております。学生のために、よりよいシラバスになっていくことを願っております。

